

でんさいネットについてよく聞かれる お客様の質問には このように回答しよう

ここでは、お客様からよく聞かれる質問を挙げ、回答のポイントを解説します。

横浜港北行政書士法人 **木内 清章**

Q1 ネット環境がないと使えないの？ 停電等のときはどうするの？



A でんさいネットは、インターネットが利用の前提となることはいうまでもありません。これはインターネットバンキングとIDが共通化しているケースが多いことから分かります。

書面での受付も可能

ただし、停電やオンライン障害時には、店頭やFAXなどによる書面での受付・指示等の対応が取られて、資金決済機能が滞ることがないようにルールとなっています。これについては、でんさいネットにかかるBCPマニュアルとして定められていますので、自行車庫の規程を確認してみてください。

A でんさいネットのID・パスワードが不正取得されるなどによって、情報漏洩や不正発行が行われるおそれがないか、心配する取引先もあるかもしれません。

取引先を限定する機能も

でんさいネットでは不正防止のため、債権発生など記録請求を受ける相手方を限定する指定許可機能や、各種記録(譲渡・支払い等)の開示可能範囲を最終債権者や金融機関に限定する機能が用意されています。

さらに、発生した債権の取消しや変更などによって、支払いにストップをかけることも可能です。

Q2 セキュリティは 大丈夫？ 不正に使われないようにする 対策は…？



A 新たな利用ニーズの発生も、利用開始から1年を経過して、大手から中小へと資金決済に利用する流れが広がってきました。1年前は「つきあい」で利用申込みしただけの先にも、実需が生じている可能性があるでしょう。なお、電子証明書(後述)は期限が切れているおそれもありますので、確認しておきましょう。

Q3 昨年申し込んだが一度も利用していない。今すぐ使えるの？



A でんさいネットの申込み・接続は行ったものの、その後、放置したままという取引先も少なくありません。接続環境は維持されており、いつでも利用を開始できますので、改めて声かけしてみるとよいでしょう。

新たな利用ニーズの発生も

利用開始から1年を経過して、大手から中小へと資金決済に利用する流れが広がってきました。1年前は「つきあい」で利用申込みしただけの先にも、実需が生じている可能性があるでしょう。

Q4 複数のパソコンで でんさいネットを利用することはできるの？



A でんさいネットの申込みにあたっては電子証明書(真の利用者を確認するための手段)を利用している場合、これに対応して、アクセス元のパソコンと利用者(電子証明書を発行される者)が定められます。

複数台での利用も可能

一方で、既存のインターネットバンキングとログインIDを共有する場合は、そのインターネットバンキングの接続環境によっては、複数のパソコンで利用することもできます。企業の社員数やセキュリティ体制に応じて、複数のパソコンからも利用できるようです。

A でんさい口座は複数の金融機関での開設が可能で、現に複数開設している取引先も多くあります。他行庫ででんさいネットを利用している取引先は、理解も進んでいるため、積極的に自行車庫での開設を勧奨していくとよいでしょう。

資金調達ルートが増やせる

資金決済としては1口座でも支障はないかもしれませんが、でんさい割引やでんさい貸付などの調達ルートを広げる意味では、取引先にもメリットがある話です。

なお、利用者番号は1法人につき1番号ですので、他行庫と共通して使用します。

Q5 でんさいネットを 他行で申込済み。追加で 申込み できるの？



A このため、遠隔地の相手先との決済も、手形交換所を経由するよりも効率的に行えるといえます。ビジネスマッチングの際に、併せて勧めることも有効です。



Q6 でんさいネットの 利用金融機関が 取引先とは 異なるけど いいの？



A 取引先が資金のやり取りをする相手先は、自行車庫ででんさい口座を有していないことも少なくないでしょう。しかし、でんさいネットは全国の金融機関が参加していますので、問題はありませぬ。

A でんさいネットに限らず一般のネットバンキング等でも、パスワードの定期的な変更は、セキュリティ管理の観点から求められています。

アクセス権限は分散させる

取引先の人数・規模にもよりますが、単に特定の担当者のみパスワードを一元管理させてしまうと、不祥事以外にも事故発生など、万が一のリスクがつきまといまます。

担当者の複数化・定期的な変更、電子証明書を複数名に発行してアクセス権限を分散させるといった対応が望ましいといえるでしょう。

Q7 経理担当者だけに パスワードの 管理を 任せて 大丈夫？

